

「雨水浸水対策基本方針（案）」に対する市民意見募集の結果について

1. 募集期間

令和4年2月14日（月曜日）～令和4年3月18日（金曜日）

2. 意見件数

12通14件

3. 意見の概要と神戸市の考え方

※ご意見の内容は趣旨を損なわない程度に要約しています。

意見の概要		意見に対する市の考え方
事業について		
1	地下神殿のような大規模な地下貯留施設は神戸市には必要ないのか。	浸水被害を防ぐためには街中に降った雨を速やかに海や川等に排除する雨水管の整備が効果的です。しかしながら、雨水管の整備が困難であるときには地下貯留施設が必要になる場合もあります。
2	最近、各地で浸水被害が発生すると、気候変動の影響という言葉をよく耳にするが、今回、策定する基本方針は気候変動への影響も考えて浸水対策を進めていくということか。	今後の浸水対策は、将来的な気候変動による増加も見込んだ雨を対象に進めていきます。
3	これまで住んできて浸水被害はほとんどなかったが、優先して整備する地区に選定されている。本当に浸水対策が必要なのか。	今後の浸水対策は、将来的な気候変動による増加も見込んだ雨を対象に進めていくため、これまで大きな浸水が発生していない地区でも選定している場合があります。
4	今から15年くらい前に三宮周辺の国道で大規模な浸水被害が発生した。最近では各地で浸水被害が発生しても、三宮では浸水しなくなったが、浸水対策の効果が出ていると言えるのか。今後も継続して事業をすすめて、安全なまちづくりに努めてほしい。	三宮周辺では平成16年の台風による浸水を機に、ポンプ場や雨水管の整備を進めており、平成27年度には3か所のポンプ場すべてが供用を開始しています。神戸港の過去最高潮位となった平成30年9月の台風21号の際にも、三宮周辺では大きな浸水被害は発生しておらず、浸水対策の効果が十分に出ていると思われます。

5	<p>近年、毎年のように「50年に一度の大雨」「観測史上最大」と言われる雨が降っており、そのような雨の際でも人の命を守れるような対策を進めてほしい。</p>	<p>整備基準を超えるような雨には、ハード対策のみで対応するのは困難なため、ICTを活用した情報発信により市民の皆様が災害に備え、簡単に様々な情報を収集できるようにすることや防災学習により市民の皆様の防災意識の向上を図れる機会を設けることなどのソフト対策を進めていきます。</p>
6	<p>優先度が高い地区から対策を進めることは良いと思いますが、評価Ⅲの地区は整備目標が示されていないので、浸水が発生したとしても整備を行わないのか。実際に浸水被害が出た地域は優先して整備すべきだと思う。</p>	<p>評価Ⅰ地区と評価Ⅱ地区については、今後20年間の具体的な計画に基づき、対策を実施していきます。一方、評価Ⅲ地区については、浸水被害などを考慮し、個別に対応を検討いたします。</p>
7	<p>最近では異常気象による水災害が頻発に起こっているため、これから先も安心して神戸で暮らせるように、しっかりと将来を見据えた浸水対策を進めてほしい。</p>	<p>本市では、過去に生じた水害を教訓に、同様の水害が起らないよう雨水管やポンプ場などを計画的に整備してきました。今後は、将来にわたって市民の皆様が安心して暮らせるよう、気候変動の影響も考慮して浸水対策事業を進めてまいります。</p>
8	<p>ゲリラ豪雨が増えています。将来の気候変動も予測して浸水対策をしっかりと進めてほしい。</p>	
9	<p>将来の世代が安全に暮らせるために、計画的な浸水対策を行ってほしい。</p>	
10	<p>道路や地面がある程度浸水することは仕方ないと思うが、神戸では家が浸水しないように、十分な対策をしてほしい。</p>	
11	<p>各地で豪雨などによる災害が発生しているため、将来にわたって安心して暮らせるようなまちづくりを進めてほしい。</p>	

財源について		
12	財源が限られている中で事業を進めるために、しっかり優先順位をつけて浸水対策に取り組んでほしい。	雨水管やポンプ場などを整備するハード対策には多額の事業費が必要になるため、優先順位をつけて、迅速かつ効率的に事業を進めていきます。一方で、整備基準を超えるような雨には、ハード対策のみで対応するのは困難なため、ソフト対策もあわせて対策を進めていきます。
13	ハード対策だけではなく、ソフト対策も合わせて実施し、財源の削減を行うことで、浸水対策以外の事業にも財源を使ってほしい。	
その他		
14	工事の実施には、私たち住民の協力も必要だと思うので、情報共有をしっかりとしてほしい。	浸水対策工事にあたっては、周辺の家屋等や道路の通行に影響を及ぼすことになるため、周辺にお住まいの方やお勤めの方のご理解とご協力が必要不可欠です。事業を実施する際は、情報共有しながら事業を進めていきます。